

2010年(平成22年)10月19日(火曜日)

増毛山道別荘く岩尾ルート

23年度に一般開放へ

【増毛】留萌振興局、NPO法人増毛山道の会主催の増毛山道別荘く岩尾ルート利用検討会が、十六日午前七時から同ルートと暑寒沢自治会館で開かれ、関係者約四十人が同ルートを歩いたあと、感想を述べ合い、今後の課題について意見交換した。

増毛山道の別荘く岩尾ルートは延長約十六キロ。昭和二十年代まで、陸の孤島だった岩尾、雄冬地区と増毛市街地を結ぶ生活道路として利用され

た。しかし、定期船の運航開始に伴い、同ルートは利用されなくなり、ささやぶの中に埋もれてしまった。

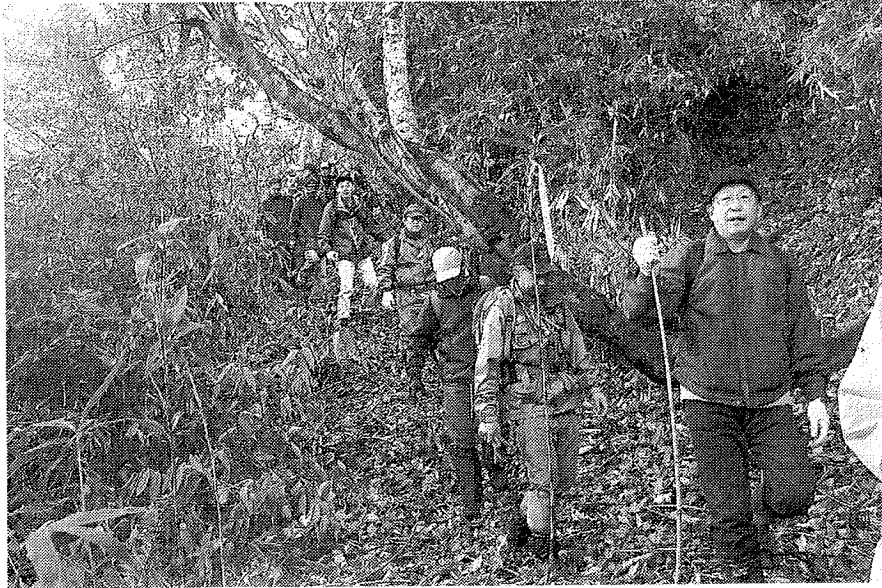
同ルートの復元に挑んだのは、NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)。暑寒別天売焼尻国定公園を管理する留萌振興局との協働事業として、二十一年度からささ刈り作業に着手し、今月七日に開削作業を終え、約半世紀ぶりに開通させた。

参加した増毛町と石狩市の

職員、旅行代理店の関係者らは、標高六〇六メートルの位置を示す一級水準点、明治十年に建設され火災で焼失した旧休泊所跡、昭和十六年に廃止された武好駅通跡、同二十年代後半まで保守管理が行われていた通信用の電信柱などを確認しながら、山道の一部区間約五キロを歩いた。

暑寒沢自治会館で開かれた検討会では、参加者から「現状は登山家向きのコースで初心者には難しい」といった感想のほか、「石狩市浜益地区幌まで復元してほしい」などといった意見が出た。

増毛山道の会の小杉忠利事務局長は「二十三年度に別荘く岩尾ルートを整備し、年度の後半には一般開放したい」としている。(木村繁)



増毛山道を歩く参加者